

# 中高生が希望を抱く要因から考察する教育のあり方

## Education as Considered by the Hope Factors Among Middle and High School Students

鳥越 ゆい子

Yuiko TORIGOE

### 1. 問題の背景と目的

2000年代初頭、我が国の「格差」に関して注目が集まった頃（例えば、荻谷2001や佐藤2000など）、山田（2004）は、「希望格差社会」を提唱した。ここでの希望格差社会とは、「将来に希望がもてる人と将来に絶望している人に分裂」している社会の状態のことである。そして、我が国の若者が、全体的に希望を抱けなくなっているのではなく、社会の構造的な問題により希望の抱き方に「格差」が生じていることを指摘した。この指摘は、格差社会の議論に新しい視点をもたらすと同時に、我々が希望を抱くかどうかは、社会現象のひとつとして捉えられるということを示した。

そして、同研究では、希望を持ってないのは「平凡な能力とさしたる資産をもたない多くの人々」であり、社会経済構造の変化により、学校に入ることが職を保証しない今、親の影響力が強まっているという分析がなされていた。ここでの親の影響とは、具体的には、早くからそして長期的に教育投資ができるという経済的な豊かさに加えて、文化的な環境である。すなわち、荻谷（2001）の指摘した、家庭の階層によって勉強時間や勉強意欲の差が生まれていること、ニューエコノミーの到来によって二極化する社会の現実に気付いている親とそうでない親で、子どもの教育の仕方が異なることが記述される。

この山田の研究からおよそ20年が経過したが、今なお、子どもにとって親の影響が大きく、それが「格差」につながっていることは、「ペアレントクラシー」や「親ガチャ」などという言葉で、指摘され続けている（山田2022、志水2022他）。

一方、内閣府が実施する「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」の2013年調査を使用し、各調査国（日本、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデン）の情勢をふまえて国際比較分析をおこなった鈴木（2015）は、若者が希望を持つことに影響を与えている要因として、親の影響以外にも複数あることを指摘している。

まず、日本特有のパターンとして、学歴や仕事と希望との関連を指摘している。すなわち、学歴に関することでは、大学進学者のほうが中高卒業者より希望を持っている人が多く、特に男性にその傾向が強い。また、「学校を中退・休学中」という回答者の場合、希望を持つ人は3割以下となっていることが指摘されている。仕事に関することでは、「専業主婦」と回

答する人に希望を持つ人が多いことや、失業が希望に与えるインパクトが大きいことなどを指摘している。そしてここから、「受験や就職で一度失敗すると、それをなかなか挽回できない」という日本の社会システムの硬直性の結果、将来に希望を持つ若者が少ないのではないかと指摘する。

また、鈴木は、おおよそその国で一致して、年齢（「中学高校期」までが高い）や、本人の経済状況や国の経済状況の認識、家庭生活や友人関係の満足度や結婚・恋愛パートナーの有無が希望の持ち方に関連していることを明らかにした。

他方で、日本の13～17歳の両親との同居状況別に希望度を見た結果で、統計的な有意差は確認できなかったことが報告されている。つまり、「両親とも別居」「母親とのみ同居」「父親とのみ同居」「両親とも同居」のいずれのグループもおおよそ60%から70%の希望度を示しており、一般的に言われるような、離婚が子どもの希望を失わせるわけではないとされている。そして、家庭内で争いごとがないことに満足していること、親の愛情に満足していること、親が自分のことをよく理解してくれる、生き方の手本となる、尊敬できる、やさしいと思っているという項目において、希望と正の相関を認められたことが示されている。

ここでもうひとつ注目したいことがある。一般的に、離婚家庭、とりわけシングルマザーの家庭は、収入が低い傾向にある。しかし、両親との同居状況が、子どもの希望の有無に影響しないとするならば、経済的な影響もあまり大きくない可能性があると考えられるのではないだろうか。

また、鈴木は、自分が現在通っている学校の意義をどのように考えているか問う質問群と希望との関連についても確認している。すなわち、それぞれの項目を選んだ者と選ばなかった者との間で、将来について希望を持つという者の割合がどのくらい異なるのかを見たところ、差が最も明確に現れたのは、「友達との友情をはぐくむ」ことに学校の意義があると思うかどうかであったという。そして2番目に「先生の人柄や生き方から学ぶ」、その後に「自分の才能を伸ばす」「専門的な知識を身に付ける」が続き、「一般的・基礎的知識を身に付ける」「仕事に必要な技術や能力を身に付ける」「学歴や資格を得る」「自由な時間を楽しむ」の4項目については有意な結果が得られなかったことを示した。

これらの結果から、「希望」という視点から見た場合、子どもたちは、いわゆる「学力」だけでなく、「非認知能力」の獲得を重要視している可能性が指摘できる。「非認知能力」は、2000年にノーベル経済学賞を受賞したジェームス・ヘックマンの主張によって世界的に注目され、現行の日本の「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」で、非認知能力の育成の重要性について触れられるとともに、小学校・中学校・高等学校の「学習指導要領」においてもそのアイデアが取り入れられて構成されるようになってきているものである。「友情をはぐくむ」や「人柄」・「生き方」に学ぶということは、まさに「非認知能力」の獲得に関わるものだと捉えられる。

以上より、我が国の若者の中には、将来に希望を持っていない者が少なくなく、その背景に、育った家庭や、被教育経験、最終学歴が関連していることが明らかになっている。これについて、2004年の山田の議論では、他の格差論と同じように、主に家庭の経済状況や、学歴社会で

の成功という意味で学力の獲得状況との関連に重きをおいて論じられていた。しかし、鈴木の実験によって、将来への希望を持てるかどうかは、家庭内の人間関係や、非認知能力の獲得も関連している可能性が示唆された。ここに、子どもの「希望格差」問題について、学校教育や家庭支援の分野から打開策を考える余地があるとみることができると考える。

実際、「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」2013年調査の報告書（2014年内閣府政策統括官）でも、日本の若者が将来に対する希望を持てるようにするための一つとして、「自分への満足感」を高めることをキー概念としているのだが、この満足感を高めるために「子育てや家庭教育に対する支援、学校生活の満足度を高めるようなきめ細やかで質の高い教育、就労支援等に係る取組が充実することが期待される」と述べている。

山田（前掲）では、「希望」の説明に際して、ランドルフ・ネッセの希望論から「希望（hope）」という感情は、努力が報われるという見通しがあるときに生じ、絶望は、努力してもしなくても同じとしか思えない時に生じる」という言葉を引用して、「希望」を解釈している。本稿でも、この考えに準拠し、今後論を進めていきたい。そして、このように希望を捉えるならば、希望とは、学びに向かう力の基盤となるものであると考えており、希望を分析することは、希望格差のみならず、学力格差の是正にもつながりうると捉えている。

以上より、本稿は、「希望格差」を改善できる具体的な教育方策を検討する基礎資料の提供をめざし、希望を規定する社会的要因の中でも、家庭の状況（経済状況、人間関係）および、学校生活の状況（「学力」／「非認知能力」の獲得、学校生活の満足度）について、それぞれの影響の大きさの確認・整理をおこなうことを目的とする。

具体的には、以下4点について明らかにする。まず、社会的要因の分析に先立って、①今回の回答者の「希望」の内実を明らかにする。そのうえで、②家庭の経済状況と、家庭内の人間関係の影響の大きさ比較、③狭義の「学力」と、「非認知能力」の影響の大きさ比較、④希望の有無に影響する「非認知能力」の内容の確認をおこなう。

## 2. 分析の視点と方法

分析に使用するものは、内閣府が2013年と2018年に実施した「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」である。〔二次分析〕に当たり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター SSIJデータアーカイブから〔「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査, 2013」および「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査, 2018」（内閣府 政策統括官（共生社会政策担当）付 青少年企画担当）〕の個票データの提供を受けた。

ここでは、我が国の教育方策を検討することを目的とするため、主に「日本」の回答者、中でも「在学中の中高生」に絞って分析をおこなう。また、先に示した鈴木の結果の妥当性を確認する意味も含めて、2013年と2018年両方のデータを用いることとした。

対象者の概要は以下のとおりである。2013年調査では、高校生161名（男子87名、女子74名）、中学生193名（男子109名、女子84名）、2018年調査では、高校生174名（男子83名、女子91名）、中学生120名（男子62名、女子58名）である。

また、学校段階・性別による希望の有無については以下の表1～4に示したとおりである。

中学生の女子がやや希望を持っているという割合が高いが、その他は、「希望がある」「どちらかといえば希望がある」と肯定的に回答するのはおおむね7割程度である。

参考までに、他国の回答状況を紹介しますと、いずれの国・学校段階・性別においても、「希望がある」「どちらかといえば希望がある」と肯定的に回答する割合がおおむね9割前後の数字が示されている（内閣府政策統括官2014,2019）。つまり、日本の中高生が希望を抱く割合は、相対的に低いのが現状である。

表1 <2013年中学生> 性別 と 将来への希望 のクロス表

|    | 将来への希望      |                   |                   |           | 合計            |
|----|-------------|-------------------|-------------------|-----------|---------------|
|    | 希望がある       | どちらかといえ<br>ば希望がある | どちらかといえ<br>ば希望がない | 希望がない     |               |
| 男性 | 11<br>10.1% | 64<br>58.7%       | 31<br>28.4%       | 3<br>2.8% | 109<br>100.0% |
| 女性 | 9<br>10.7%  | 64<br>76.2%       | 11<br>13.1%       | 0<br>.0%  | 84<br>100.0%  |
| 合計 | 20<br>10.4% | 128<br>66.3%      | 42<br>21.8%       | 3<br>1.6% | 193<br>100.0% |

表2 <2018年中学生> 性別 と 将来への希望 のクロス表

|    | 将来への希望      |                   |                   |            | 合計            |
|----|-------------|-------------------|-------------------|------------|---------------|
|    | 希望がある       | どちらかといえ<br>ば希望がある | どちらかといえ<br>ば希望がない | 希望がない      |               |
| 男性 | 17<br>27.4% | 28<br>45.2%       | 10<br>16.1%       | 7<br>11.3% | 62<br>100.0%  |
| 女性 | 17<br>29.3% | 34<br>58.6%       | 7<br>12.1%        | 0<br>.0%   | 58<br>100.0%  |
| 合計 | 34<br>28.3% | 62<br>51.7%       | 17<br>14.2%       | 7<br>5.8%  | 120<br>100.0% |

表3 <2013年高校生> 性別 と 将来への希望 のクロス表

|    | 将来への希望      |                   |                   |            | 合計            |
|----|-------------|-------------------|-------------------|------------|---------------|
|    | 希望がある       | どちらかといえ<br>ば希望がある | どちらかといえ<br>ば希望がない | 希望がない      |               |
| 男性 | 19<br>21.8% | 41<br>47.1%       | 18<br>20.7%       | 9<br>10.3% | 87<br>100.0%  |
| 女性 | 11<br>14.9% | 41<br>55.4%       | 19<br>25.7%       | 3<br>4.1%  | 74<br>100.0%  |
| 合計 | 30<br>18.6% | 82<br>50.9%       | 37<br>23.0%       | 12<br>7.5% | 161<br>100.0% |

表4 <2018年高校生> 性別 と 将来への希望 のクロス表

|    | 06 将来への希望   |                   |                   |            | 合計            |
|----|-------------|-------------------|-------------------|------------|---------------|
|    | 希望がある       | どちらかといえ<br>ば希望がある | どちらかといえ<br>ば希望がない | 希望がない      |               |
| 男性 | 25<br>30.1% | 32<br>38.6%       | 18<br>21.7%       | 8<br>9.6%  | 83<br>100.0%  |
| 女性 | 23<br>25.3% | 46<br>50.5%       | 14<br>15.4%       | 8<br>8.8%  | 91<br>100.0%  |
| 合計 | 48<br>27.6% | 78<br>44.8%       | 32<br>18.4%       | 16<br>9.2% | 174<br>100.0% |

今回の分析で使用する質問項目について紹介する。まず表5と表6に示したのは、今回の回答者の「希望」の内実を確認するために用いた質問群である。調査票の中で「自分自身のイメージ」として質問された10項目を便宜的に4つのカテゴリ（自己肯定感、自己効力感、他者との関係の築き方、その他）に分けたもの、また「将来イメージ」として質問された11項目を5つのカテゴリ（経済的成功、私的成功、家庭的成功、その他）へ分類したものの回答傾向から、自分自身や自己の将来についてどのように考える子どもが、希望を抱いているのかを確認する。＜①今回の回答者の「希望」の内実＞

表5 カテゴリ別「自分自身のイメージ」の質問10項目

|            |  |   |
|------------|--|---|
| 自己肯定感      | 自己認識：自分自身のイメージ<br>次のことがあなたがあなた自身にどのくらいあてはまりますか。<br>(a)私は、自分自身に満足している<br>(b)自分には長所があると感じている<br>(g)自分は役に立たないと強く感じる | 1)そう思う／2)どちらかといえばそう思う／<br>3)どちらかといえばそう思わない／4)そう思わない |
| 自己効力感      | 自己認識：自分自身のイメージ<br>次のことがあなたがあなた自身にどのくらいあてはまりますか。<br>(d)自分の考えをはっきり相手に伝えることができる<br>(e)うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む       | 1)そう思う／2)どちらかといえばそう思う／<br>3)どちらかといえばそう思わない／4)そう思わない |
| 他者との関係の築き方 | 自己認識：自分自身のイメージ<br>次のことがあなたがあなた自身にどのくらいあてはまりますか。<br>(c)自分の親から愛されている（大切にされている）と思う<br>(h)人は信用できないと思う                | 1)そう思う／2)どちらかといえばそう思う／<br>3)どちらかといえばそう思わない／4)そう思わない |
| その他        | 自己認識：自分自身のイメージ<br>次のことがあなたがあなた自身にどのくらいあてはまりますか。<br>(f)今が楽しければよいと思う<br>(i)よくうそをつく<br>(j)早く結婚して自分の家族を持ちたい          | 1)そう思う／2)どちらかといえばそう思う／<br>3)どちらかといえばそう思わない／4)そう思わない |

表6 カテゴリ別「将来イメージ」11項目

|       |   |   |
|-------|---|---|
| 経済的成功 | 将来像：将来イメージ<br>あなたが40歳くらいになったとき、どのようになっていると思いますか。<br>(a)お金持ちになっている<br>(c)世界で活躍している<br>(e)有名になっている<br>(j)出世している | 1)そう思う／2)どちらかといえばそう思う／<br>3)どちらかといえばそう思わない／4)そう思わない |
| 私的成功  | 将来像：将来イメージ<br>あなたが40歳くらいになったとき、どのようになっていると思いますか。<br>(b)自由にのんびり暮らしている<br>(d)多くの人の役に立っている<br>(h)幸せになっている        | 1)そう思う／2)どちらかといえばそう思う／<br>3)どちらかといえばそう思わない／4)そう思わない |
| 家庭的成功 | 将来像：将来イメージ<br>あなたが40歳くらいになったとき、どのようになっていると思いますか。<br>(f)子供を育てている<br>(g)親を大切にしている<br>(i)結婚している                  | 1)そう思う／2)どちらかといえばそう思う／<br>3)どちらかといえばそう思わない／4)そう思わない |
| その他   | 将来像：将来イメージ<br>あなたが40歳くらいになったとき、どのようになっていると思いますか。<br>(k)外国に住んでいる   | 1)そう思う／2)どちらかといえばそう思う／<br>3)どちらかといえばそう思わない／4)そう思わない |

次に、中高生段階の子ども達が将来に希望を抱けるかどうかに影響を与える社会的要因を探るべく、家庭の状況と学校生活の状況の2側面について分析をおこなう。家庭の状況については、表7に示した質問項目を使用し、家庭の経済状況、家庭の人間関係（親の愛情、人間関係）について影響の大きさを確認する。〈②家庭の経済状況と、家庭内の人間関係の影響の大きさ比較〉 また、家庭の人間関係の比較対象として、鈴木（2014）で希望との関連が指摘されていた「友人との人間関係」についても併せて結果を示す。なお、鈴木は、同じく「恋愛パートナー」の有無も希望との関連も指摘していたが、これについては、今回の対象者に恋愛パートナーを有する者が少ないため、分析はおこなわないこととした。

表7 カテゴリー別「家庭の状況」の指標とした質問項目

|      |   |  |
|------|---|--|
| 経済状況 | 家庭生活の満足度：家庭生活での満足の内容<br>あなたは、家庭で生活をする上で、次の事に満足していますか。この中であてはまるものがありましたら、いくつでも選んでください。<br>(1)家の収入<br>(2)親や配偶者（事実婚のパートナーを含む）の職業 | 1)選択 / 2)非選択   |
|      | 悩みや心配ごと：悩みや心配事の有無<br>現在のあなたの悩みや心配ごとについてうかがいます。あなたは、以下のそれぞれについて、どれくらい心配ですか。<br>(e)お金のこと  | 1)心配 / 2)どちらかといえば心配 /<br>3)どちらかといえば心配ではない / 4)心配していない        |
| 親の愛情 | 自己認識：自分についてのイメージ<br>次のことがあなた自身にどのくらいあてはまりますか。<br>(c)自分の親から愛されている（大切にされている）と思う   | 1)そう思う / 2)どちらかといえばそう思う /<br>3)どちらかといえばそう思わない / 4)そう思わない     |
|      | 自己認識：充実感<br>あなたは、どんなときに充実していると感じますか。<br>(f)家族といるとき  | 1)あてはまる / 2)どちらかといえばあてはまる /<br>3)どちらかといえばあてはまらない / 4)あてはまらない |
| 家族関係 | 悩みや心配ごと：悩みや心配事の有無<br>現在のあなたの悩みや心配ごとについてうかがいます。あなたは、以下のそれぞれについて、どれくらい心配ですか。<br>(e)家族のこと  | 1)心配 / 2)どちらかといえば心配 /<br>3)どちらかといえば心配ではない / 4)心配していない        |
|      | 自己認識：充実感<br>あなたは、どんなときに充実していると感じますか。<br>(g)友人や仲間といるとき   | 1)あてはまる / 2)どちらかといえばあてはまる /<br>3)どちらかといえばあてはまらない / 4)あてはまらない |
| 友人関係 | 悩みや心配ごと：悩みや心配事の有無<br>現在のあなたの悩みや心配ごとについてうかがいます。あなたは、以下のそれぞれについて、どれくらい心配ですか。  | 1)心配 / 2)どちらかといえば心配 /<br>3)どちらかといえば心配ではない / 4)心配していない        |

また、学校や学習に関する状況としては、表8に示したとおり、「学力」の獲得、「非認知能力」の獲得に加えて、学校生活の満足度に関する質問項目を使用する。「非認知能力」の内容については、いろいろ考えることができるが、ここでは、「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」で質問される各種能力に関する内容をそのまま使用することとする。ただし、「賢さ、頭の良さ」については、「学力」の獲得状況を測るものとして使用する。これらの質問群により、〈③狭義の「学力」と、「非認知能力」の影響の大きさ比較、④希望の有無に影響する「非認知能力」の内容の確認〉をおこなう。

なお、これらいずれについても、学校段階やジェンダーが影響している可能性がある。そこで分析に当たっては、学校段階および性別に結果を示すこととする。

表8 カテゴリー別「学校生活の状況」の指標とした質問項目

|                    |   |  |
|--------------------|---|--|
| 「学力」<br>の獲得        | 自己認識：自分についての誇り<br>あなた自身のことについてうかがいます。あなたは、以下のそれぞれについて、誇りを持っていますか。<br><b>(e)賢さ、頭の良さ</b>        | 1)誇りを持っている／2)どちらかといえば誇りを持っている／<br>3)どちらかといえば誇りを持っていない／4)誇りを持っていない                        |
|                    | 悩みや心配ごと：悩みや心配事の有無<br>現在のあなたの悩みや心配ごとについてうかがいます。あなたは、以下のそれぞれについて、どれくらい心配ですか。<br><b>(a)勉強のこと</b> | 1)心配／2)どちらかといえば心配／<br>3)どちらかといえば心配ではない／4)心配していない   |
| 「非認知<br>能力」の<br>獲得 | 自己認識：自分についての誇り<br>あなた自身のことについてうかがいます。あなたは、以下のそれぞれについて、誇りを持っていますか。<br><b>(a)明るさ</b>            | 1)誇りを持っている／2)どちらかといえば誇りを持っている／<br>3)どちらかといえば誇りを持っていない／4)誇りを持っていない                        |
|                    | 自己認識：自分についての誇り<br>あなた自身のことについてうかがいます。あなたは、以下のそれぞれについて、誇りを持っていますか。<br><b>(b)やさしさ</b>           | 1)誇りを持っている／2)どちらかといえば誇りを持っている／<br>3)どちらかといえば誇りを持っていない／4)誇りを持っていない                        |
|                    | 自己認識：自分についての誇り<br>あなた自身のことについてうかがいます。あなたは、以下のそれぞれについて、誇りを持っていますか。<br><b>(c)忍耐力、努力家</b>        | 1)誇りを持っている／2)どちらかといえば誇りを持っている／<br>3)どちらかといえば誇りを持っていない／4)誇りを持っていない                        |
|                    | 自己認識：自分についての誇り<br>あなた自身のことについてうかがいます。あなたは、以下のそれぞれについて、誇りを持っていますか。<br><b>(d)慎重深い</b>           | 1)誇りを持っている／2)どちらかといえば誇りを持っている／<br>3)どちらかといえば誇りを持っていない／4)誇りを持っていない                        |
|                    | 自己認識：自分についての誇り<br>あなた自身のことについてうかがいます。あなたは、以下のそれぞれについて、誇りを持っていますか。<br><b>(f)まじめ</b>            | 1)誇りを持っている／2)どちらかといえば誇りを持っている／<br>3)どちらかといえば誇りを持っていない／4)誇りを持っていない                        |
|                    | 自己認識：自分についての誇り<br>あなた自身のことについてうかがいます。あなたは、以下のそれぞれについて、誇りを持っていますか。<br><b>(g)正義感</b>            | 1)誇りを持っている／2)どちらかといえば誇りを持っている／<br>3)どちらかといえば誇りを持っていない／4)誇りを持っていない                        |
|                    | 自己認識：自分についての誇り<br>あなた自身のことについてうかがいます。あなたは、以下のそれぞれについて、誇りを持っていますか。<br><b>(h)決断力、意志力</b>        | 1)誇りを持っている／2)どちらかといえば誇りを持っている／<br>3)どちらかといえば誇りを持っていない／4)誇りを持っていない                        |
|                    | 自己認識：自分についての誇り<br>あなた自身のことについてうかがいます。あなたは、以下のそれぞれについて、誇りを持っていますか。<br><b>(i)体力、運動能力</b>        | 1)誇りを持っている／2)どちらかといえば誇りを持っている／<br>3)どちらかといえば誇りを持っていない／4)誇りを持っていない                        |
|                    | 自己認識：自分についての誇り<br>あなた自身のことについてうかがいます。あなたは、以下のそれぞれについて、誇りを持っていますか。<br><b>(j)容姿</b>             | 1)誇りを持っている／2)どちらかといえば誇りを持っている／<br>3)どちらかといえば誇りを持っていない／4)誇りを持っていない                        |
|                    | 学校生活<br>の捉え方  | 学校に通う意義・評価：学校生活の満足度<br>あなたは、学校生活に満足していますか、それとも不満ですか。現在、学校へ行っていない方は、学校に行っていた時のことをお答えください。 |

### 3. 結果

#### a. 自分自身のイメージ、将来イメージと希望の関連

ここでは、ピアソンの積率相関係数を用いて、今回の回答者の考える「希望」の内実について確認をおこなう。そのために、自分自身のイメージおよび自己の将来イメージの各項目と、「あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか」の質問との関連について検討を行う。学校段階・性別で分けて、相関係数の高い順に並べた(表9～12)。また、統計的に有意な結果が示されていない項目はグレーで着色している。

表9、表11が中学生の結果であり、表10、12が高校生の結果である。それぞれ中央より左側が男子の結果、右側に女子の結果を示している。また、男女それぞれ左枠が2013年調査の結果、右枠が2018年調査の結果である。

まず、自分自身のイメージに関するものである。表9、10を見ると、学校段階や性に関わらず、有意な結果を示す項目が3つある。自己肯定感に関する「私は自分自身に満足している」「自分には長所があると感じている」、また自己効力感に関する「うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む」の3つである。その意味で、希望を持てるかどうかは、これらの自己肯定感や自己効力感と関連があると言えるだろう。

表9 自分自身のイメージと希望 相関係数(中学生) 男子

|        |                                 | 男子     |                                 | 女子     |                                 |        |                                 |      |  |
|--------|---------------------------------|--------|---------------------------------|--------|---------------------------------|--------|---------------------------------|------|--|
|        |                                 | 2013   |                                 | 2018   |                                 | 2013   |                                 | 2018 |  |
| 自己効力感  | うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む(.442**) | 自己肯定感  | 自分には長所があると感じている(.549**)         | 自己肯定感  | 自分には長所があると感じている(.448**)         | 自己効力感  | うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む(.434**) |      |  |
| 自己肯定感  | 自分自身に満足している(.419**)             | 他者との関係 | 自分の親から愛されている(.477**)            | 自己肯定感  | 自分自身に満足している(.430**)             | 自己肯定感  | 自分自身に満足している(.344**)             |      |  |
| 自己肯定感  | 自分には長所があると感じている(.393**)         | 自己効力感  | うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む(.430**) | 自己効力感  | うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む(.424**) | 自己効力感  | 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる(.324**)  |      |  |
| 自己効力感  | 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる(.360**)  | 自己効力感  | 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる(.410**)  | 自己肯定感  | 自分は役に立たないと強く感じる(-.414**)        | 自己肯定感  | 自分には長所があると感じている(.277*)          |      |  |
| 他者との関係 | 自分の親から愛されている(.246*)             | 自己肯定感  | 自分は役に立たないと強く感じる(-.398**)        | 他者との関係 | 自分の親から愛されている(.395**)            | 他者との関係 | 人は信用できないと思う(.221)               |      |  |
| その他    | よくうそをつく(-.241*)                 | 自己肯定感  | 自分自身に満足している(.389**)             | 自己効力感  | 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる(.338**)  | 自己肯定感  | 自分は役に立たないと強く感じる(-.197)          |      |  |
| 自己肯定感  | 自分は役に立たないと強く感じる(-.183)          | 他者との関係 | 人は信用できないと思う(-.388**)            | その他    | よくうそをつく(-.232*)                 | その他    | 早く結婚して自分の家族を持ちたい(.170)          |      |  |
| その他    | 早く結婚して自分の家族を持ちたい(.151)          | その他    | よくうそをつく(-.286*)                 | 他者との関係 | 人は信用できないと思う(-.176)              | その他    | 今が楽しければよいと思う(-.083)             |      |  |
| 他者との関係 | 人は信用できないと思う(-.117)              | その他    | 早く結婚して自分の家族を持ちたい(.125)          | その他    | 早く結婚して自分の家族を持ちたい(-.054)         | 他者との関係 | 自分の親から愛されている(.047)              |      |  |
| その他    | 今が楽しければよいと思う(-.032)             | その他    | 今が楽しければよいと思う(.060)              | その他    | 今が楽しければよいと思う(.015)              | その他    | よくうそをつく(-.029)                  |      |  |

(注)1.ピアソンの積率相関係数を用いた。\*\*の相関係数は1%水準で有意(両側)。\*の相関係数は5%水準で有意(両側)

2.分析に使用したどちらかの要因に無記入のあるサンプルは除外した。

表10 自分自身のイメージと希望 相関係数 (高校生)

|         |                                  | 男子     |                                  | 女子      |                                  |        |                                 |
|---------|----------------------------------|--------|----------------------------------|---------|----------------------------------|--------|---------------------------------|
|         |                                  | 2013   |                                  | 2018    |                                  | 2018   |                                 |
| その他     | 早く結婚して自分の家庭を持ちたい (.463**)        | 自己肯定感  | 自分自身に満足している (.509**)             | 自己肯定感   | 自分には長所があると感じている (.386**)         | 自己肯定感  | 自分には長所があると感じている (.350**)        |
| 自己効力感   | うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む (.448**) | 自己効力感  | うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む (.390**) | 自己効力感   | うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む (.372**) | 自己肯定感  | 自分は役に立たないと強く感じる (-.342**)       |
| 自己肯定感   | 自分自身に満足している (.441**)             | 自己肯定感  | 自分には長所があると感じている (.320**)         | 他者への信頼感 | 自分の親から愛されている (.346**)            | 自己肯定感  | 自分自身に満足している (.308**)            |
| 自己肯定感   | 自分には長所があると感じている (.426**)         | 自己効力感  | 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる (.289**)  | 自己肯定感   | 自分は役に立たないと強く感じる (-.305**)        | 他者との関係 | 自分の親から愛されている (.295**)           |
| 他者への信頼感 | 自分の親から愛されている (.405**)            | その他    | 早く結婚して自分の家族を持ちたい (.267*)         | 他者との関係  | 人は信用できないと思う (-.265*)             | 自己効力感  | うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む (.242*) |
| 自己効力感   | 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる (.378**)  | 他者との関係 | 自分の親から愛されている (.245*)             | 自己肯定感   | 自分自身に満足している (.248*)              | 自己効力感  | 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる (.191)   |
| 自己肯定感   | 自分は役に立たないと強く感じる (-.340**)        | 他者との関係 | 人は信用できないと思う (-.240*)             | その他     | 早く結婚して自分の家庭を持ちたい (-.229*)        | その他    | よくうそをつく (-.176)                 |
| 他者との関係  | 人は信用できないと思う (-.327**)            | 自己肯定感  | 自分は役に立たないと強く感じる (-.198)          | その他     | よくうそをつく (-.192)                  | 他者との関係 | 人は信用できないと思う (-.129)             |
| その他     | よくうそをつく (-.281**)                | その他    | 今が楽しければよいと思う (.182)              | 自己効力感   | 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる (.118)    | その他    | 早く結婚して自分の家族を持ちたい (.090)         |
| その他     | 今が楽しければよいと思う (-.044)             | その他    | よくうそをつく (-.062)                  | その他     | 今が楽しければよいと思う (.054)              | その他    | 今が楽しければよいと思う (-.030)            |

(注)1.ピアソンの積率相関係数を用いた。\*\*の相関係数は1%水準で有意(両側)。\*の相関係数は5%水準で有意(両側)

2.分析に使用したどちらかの要因に無記入のあるサンプルは除外した。

次に、自己の将来イメージに関して、上位3つに絞って結果を見ていく。表11および12を見ると、学校段階・性別を問わずに必ず入っているのは、「多くの人の役に立っている」という社会的成功に関するものである。経済的成功に関する項目や家庭的成功、私的成功に関する項目も散見されるが、これらについては、学校段階や性によるばらつきのある結果となっている。すなわち、他の成功も軽視はできないが、社会的成功の見通しが、将来の希望の有無に与えているインパクトは大きいと言えるだろう。

表11 自己の将来イメージと希望 相関係数 (中学生) 男子

| 男子    |                       |       |                       | 女子    |                       |       |                       |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 2013  |                       | 2018  |                       | 2013  |                       | 2018  |                       |
| 社会的成功 | 多くの人の役に立っている (.566**) | 私的成功  | 幸せになっている (.612**)     | 社会的成功 | 多くの人の役に立っている (.544**) | 社会的成功 | 多くの人の役に立っている (.597**) |
| 経済的成功 | 出世している (.390**)       | 社会的成功 | 多くの人の役に立っている (.611**) | 家庭的成功 | 結婚している (.466**)       | 経済的成功 | 出世している (.489**)       |
| 経済的成功 | 有名になっている (.361**)     | 経済的成功 | 出世している (.592**)       | 家庭的成功 | 親を大切にしている (.465**)    | 経済的成功 | お金持ちになっている (.450**)   |

(注)1.ピアソンの積率相関係数を用いた。\*\*の相関係数は1%水準で有意(両側)。\*の相関係数は5%水準で有意(両側)

2.分析に使用したどちらかの要因に無記入のあるサンプルは除外した。

表12 自己の将来イメージと希望 相関係数 (高校生) 男子

| 男子    |                       |       |                       | 女子    |                       |       |                       |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 2013  |                       | 2018  |                       | 2013  |                       | 2018  |                       |
| 社会的成功 | 多くの人の役に立っている (.533**) | 私的成功  | 幸せになっている (.594**)     | 経済的成功 | お金持ちになっている (.461**)   | 私的成功  | 幸せになっている (.532**)     |
| 経済的成功 | お金持ちになっている (.507**)   | 社会的成功 | 多くの人の役に立っている (.583**) | 経済的成功 | 出世している (.434**)       | 家庭的成功 | 親を大切にしている (.485**)    |
| 家庭的成功 | 親を大切にしている (.490**)    | 家庭的成功 | 結婚している (.492**)       | 私的成功  | 多くの人の役に立っている (.432**) | 社会的成功 | 多くの人の役に立っている (.387**) |

(注)1.ピアソンの積率相関係数を用いた。\*\*の相関係数は1%水準で有意(両側)。\*の相関係数は5%水準で有意(両側)

2.分析に使用したどちらかの要因に無記入のあるサンプルは除外した。

以上より、全体的なパターンとしては、自己肯定感や自己効力感が高く、「多くの人の役に立つ」という社会的成功を将来に見通すことができる子が、自分の将来に希望を持っていると言える。

#### b. 家庭の状況と希望の関連

ここでは、社会的要因のうち、家庭の経済状況、家庭の人間関係それぞれと、「自分の将来に明るい希望を持っているか」との関連の強さから、希望に与える影響の大きさを確認する。また、家庭の人間関係の影響の大きさを見るために、比較対象として、友人との人間関係についても併せて結果を示す。表13・14は、これらの質問項目について、ピアソンの積率相関係数を用い、学校段階・性別ごとに、値の高い順に紹介したものである。ただし、間隔尺度の形をとらない「家の収入」「親や配偶者の職業」の項目は、この分析から除いている。

結果を見ると、全体的に、家庭の人間関係や親の愛情を感じているかが、希望の有無と強い関連を持っていることが分かる。2013年調査の高校男子のみ、友人関係に関する項目が最も高い値を示しているが、その他では、親の愛情ないし家庭の人間関係、特に「家族といるときに充実感を感じる」という項目との関連が強く、家庭の存在が大きいことが分かる。

一方、家庭の経済状況については、有意な結果を得られたのは、高校男子のみである。高校男子については、2013年、2018年ともに、家庭の経済状況と希望を持てるかどうかの間に関連が確認されている。学校段階から考えて、大学進学にあたっての費用の捻出に経済的な壁を感じているのだと推測される。同じ学校段階であっても、高校の女子には類似の傾向は見られず、ジェンダーによる進学期待のちがいが表れた結果と考えられる。

表13 家庭の状況と希望 相関係数（中学生）

| 男子   |                               |      |                                | 女子   |                                |      |                              |
|------|-------------------------------|------|--------------------------------|------|--------------------------------|------|------------------------------|
| 2013 |                               | 2018 |                                | 2013 |                                | 2018 |                              |
| 親の愛情 | 自分についてのイメージ：親から愛されている (.246*) | 家族関係 | 充実感：家族といるとき (.524**)           | 家族関係 | 充実感：家族といるとき (.433**)           | 家族関係 | 充実感：家族といるとき (.285*)          |
| 家族関係 | 充実感：家族といるとき (.240*)           | 親の愛情 | 自分についてのイメージ：親から愛されている (.477**) | 親の愛情 | 自分についてのイメージ：親から愛されている (.395**) | 経済状況 | 悩み：お金のこと (.047)              |
| 友人関係 | 充実感：友人や仲間といるとき (.239*)        | 友人関係 | 充実感：友人や仲間といるとき (.397**)        | 友人関係 | 悩み：友人や仲間のこと (-.169)            | 友人関係 | 充実感：友人や仲間といるとき (.193)        |
| 友人関係 | 悩み：友人や仲間のこと (-.082)           | 友人関係 | 悩み：友人や仲間のこと (-.137)            | 友人関係 | 充実感：友人や仲間といるとき (.103)          | 友人関係 | 悩み：友人や仲間のこと (.072)           |
| 経済状況 | 悩み：お金のこと (-.048)              | 家族関係 | 悩み：家族のこと (.080)                | 経済状況 | 悩み：お金のこと (-.088)               | 親の愛情 | 自分についてのイメージ：親から愛されている (.047) |
| 家族関係 | 悩み：家族のこと (-.002)              | 経済状況 | 悩み：お金のこと (.061)                | 家族関係 | 悩み：家族のこと (-.077)               | 家族関係 | 悩み：家族のこと (-.014)             |

(注)1.ピアソンの積率相関係数を用いた。\*\*の相関係数は1%水準で有意(両側)。\*の相関係数は5%水準で有意(両側)

2.分析に使用したどちらかの要因に無記入のあるサンプルは除外した。

表14 家庭の状況と希望 相関係数（高校生）

| 男子   |                                |      |                               | 女子   |                                |      |                                |
|------|--------------------------------|------|-------------------------------|------|--------------------------------|------|--------------------------------|
| 2013 |                                | 2018 |                               | 2013 |                                | 2018 |                                |
| 友人関係 | 充実感：友人や仲間といるとき (.498**)        | 家族関係 | 充実感：家族といるとき (.266*)           | 家族関係 | 充実感：家族といるとき (.421**)           | 家族関係 | 充実感：家族といるとき (.314**)           |
| 愛情   | 自分についてのイメージ：親から愛されている (.405**) | 愛情   | 自分についてのイメージ：親から愛されている (.245*) | 愛情   | 自分についてのイメージ：親から愛されている (.346**) | 愛情   | 自分についてのイメージ：親から愛されている (.295**) |
| 友人関係 | 悩み：友人や仲間のこと (-.315**)          | 経済状況 | 悩み：お金のこと (-.228*)             | 友人関係 | 充実感：友人や仲間といるとき (.201)          | 家族関係 | 悩み：家族のこと (-.183)               |
| 経済状況 | 悩み：お金のこと (-.310**)             | 友人関係 | 充実感：友人や仲間といるとき (.208)         | 友人関係 | 悩み：友人や仲間のこと (.122)             | 友人関係 | 充実感：友人や仲間といるとき (.151)          |
| 家族関係 | 充実感：家族といるとき (.305**)           | 家族関係 | 悩み：家族のこと (-.111)              | 経済状況 | 悩み：お金のこと (.086)                | 経済状況 | 悩み：お金のこと (-.091)               |
| 家族関係 | 悩み：家族のこと (-.248*)              | 友人関係 | 悩み：友人や仲間のこと (.064)            | 家族関係 | 悩み：家族のこと (-.010)               | 友人関係 | 悩み：友人や仲間のこと (-.048)            |

(注)1.ピアソンの積率相関係数を用いた。\*\*の相関係数は1%水準で有意(両側)。\*の相関係数は5%水準で有意(両側)

2.分析に使用したどちらかの要因に無記入のあるサンプルは除外した。

また、「家庭生活での満足の内容:家の収入」、「家庭生活での満足の内容:親や配偶者の職業」の項目について、希望との関連を探るべく、クロス集計により分析をおこなった。しかし、2013年調査、2018年調査ともに、学校段階や性別を問わず、いずれの項目についても、カイ二乗検定で有意な結果を得ることができなかった。

以上より、今回のデータにおいては、家庭の経済力の影響は、高校男子にのみ見られるものの、中学生や高校女子の結果では明確な影響を確認できなかった。むしろ、家庭内の人間関係の影響が希望の有無に強く影響していることが示された。

### c. 学校生活の状況と希望の関連

ここでは、「学力」および「非認知能力」の獲得状況、また学校生活の満足度と自分の将来に明るい希望を持っているかどうかの関連の仕方から、その影響の大きさの確認・整理をおこなう。そして、狭義の「学力」と、「非認知能力」のどちらの影響が強いのか、また希望の有無に影響する「非認知能力」とはどのような能力なのかを確認する。表15が中学生、表16が高校生の結果である。いずれもピアソンの積率相関係数を用い、相関係数の値の高い順に示している。

表15をみると、狭義の「学力」と希望の有無の関連は確認できるものの、それ以上にさまざまな「非認知能力」との関連が強いことが分かる。なかでも、「決断力・意志力」や「明るさ」、「正義感」が全体的に、高い値を示している。

中学生男子に注目すると、これに加えて「やさしさ」と「忍耐力・努力家」、「容姿」が2013年調査、2018年調査ともに、相対的に高い値を示している。中学生女子については、「忍耐力・努力家」が両年とも高い値となっている。

表15 学校生活の状況と希望 相関係数 (中学生) 男子

| 男子      |                            |         |                            | 女子      |                            |          |                            |
|---------|----------------------------|---------|----------------------------|---------|----------------------------|----------|----------------------------|
| 2013    |                            | 2018    |                            | 2013    |                            | 2018     |                            |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：決断力・意志力 (.460**) | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：明るさ (.504**)     | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：やさしさ (.451**)    | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：決断力・意志力 (.435**) |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：やさしさ (.410**)    | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：正義感 (.501**)     | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：正義感 (.441**)     | 学校生活の捉え方 | 学校生活の満足度 (.357**)          |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：明るさ (.402**)     | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：決断力・意志力 (.470**) | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：決断力・意志力 (.367**) | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：容姿 (.329*)       |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：正義感 (.364**)     | 学校生活    | 学校生活の満足度 (.424**)          | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：忍耐力・努力家 (.365**) | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：明るさ (.322*)      |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：忍耐力・努力家 (.338**) | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：やさしさ (.365**)    | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：まじめ (.365**)     | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：忍耐力・努力家 (.322*)  |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：容姿 (.320**)      | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：容姿 (.355**)      | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：明るさ (.362**)     | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：正義感 (.322*)      |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：体力・運動能力 (.306**) | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：忍耐力・努力家 (.326**) | 学校生活    | 学校生活の満足度 (.309**)          | 「学力」     | 自分についての誇り：賢さ、頭の良さ (.278*)  |
| 「学力」    | 自分についての誇り：賢さ、頭の良さ (.266**) | 「学力」    | 自分についての誇り：賢さ、頭の良さ (.322*)  | 「学力」    | 自分についての誇り：賢さ、頭の良さ (.286**) | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：体力・運動能力 (.213)   |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：慎重深い (.233**)    | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：慎重深い (.309*)     | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：慎重深い (.283**)    | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：まじめ (.207)       |
| 学校生活    | 学校生活の満足度 (.224*)           | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：まじめ (.291*)      | 「学力」    | 悩みや心配事の有無：勉強のこと (-.265*)   | 「学力」     | 悩みや心配事の有無：勉強のこと (.181)     |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：まじめ (.203*)      | 「学力」    | 悩みや心配事の有無：勉強のこと (.285*)    | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：体力・運動能力 (.232*)  | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：やさしさ (.171)      |
| 「学力」    | 悩みや心配事の有無：勉強のこと (-.057)    | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：体力・運動能力 (.225)   | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：容姿 (.195)        | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：慎重深い (.158)      |

(注)1.ピアソンの積率相関係数を用いた。\*\*の相関係数は1%水準で有意(両側)。\*の相関係数は5%水準で有意(両側)

2.分析に使用したどちらかの要因に無記入のあるサンプルは除外した。

一方、表16の高校生の結果である。学校段階が上がっても、「学力」に関する項目より、「非認知能力」との関連のほうが強いと言えそうである。特に、2018年調査では、男女ともに、「学力」を測る項目について有意な結果は得られなかった。ただし、2013年調査の高校女子では、「自分についての誇り：賢さ、頭の良さ」が上位に上がっている。

「非認知能力」の項目について、男子の結果に注目すると、「明るさ」が2013年調査、2018年調査いずれにおいても高い。また、「決断力・意志力」や「やさしさ」、「慎重さ」も比較的関連が強いと言える。

女子の結果を見ると、2013年調査、2018年調査の結果いずれにおいても、全体的に値が高くなく、明確なパターンを見つけることは困難である。ただ、両年調査ともに、有意な結果を得

られているものとしては、「慎重さ」「まじめ」「決断力・意志力」「体力・運動能力」「正義感」があげられる。

また、「学校生活の満足度」に注目すると、学校段階や性に関わりなく、一定程度の関連があることが確認できる。

表16 学校生活の状況と希望 相関係数（高校生）男子

| 男子      |                            |          |                            | 女子      |                            |         |                            |
|---------|----------------------------|----------|----------------------------|---------|----------------------------|---------|----------------------------|
| 2013    |                            | 2018     |                            | 2013    |                            | 2018    |                            |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：やさしさ (.531**)    | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：体力・運動能力 (.477**) | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：慎重深い (.331**)    | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：忍耐力・努力家 (.362**) |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：明るさ (.525**)     | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：明るさ (.475**)     | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：明るさ (.329**)     | 学校生活    | 学校生活の満足度 (.308**)          |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：決断力・意志力 (.475**) | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：慎重深い (.418**)    | 「学力」    | 自分についての誇り：賢さ、頭の良さ (.322**) | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：やさしさ (.302**)    |
| 学校生活    | 学校生活の満足度 (.453**)          | 学校生活の捉え方 | 学校生活の満足度 (.408**)          | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：決断力・意志力 (.306**) | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：まじめ (.256*)      |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：まじめ (.368**)     | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：決断力・意志力 (.351**) | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：体力・運動能力 (.287**) | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：体力・運動能力 (.254*)  |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：慎重深い (.358**)    | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：やさしさ (.341**)    | 学校生活    | 学校生活の満足度 (.277*)           | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：決断力・意志力 (.246*)  |
| 「学力」    | 悩みや心配事の有無：勉強のこと (-.328**)  | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：忍耐力・努力家 (.338**) | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：まじめ (.272*)      | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：正義感 (.231*)      |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：忍耐力・努力家 (.314**) | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：容姿 (.333**)      | 「学力」    | 悩みや心配事の有無：勉強のこと (-.271*)   | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：慎重深い (.224*)     |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：正義感 (.294**)     | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：正義感 (.226*)      | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：正義感 (.234*)      | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：明るさ (.198)       |
| 「学力」    | 自分についての誇り：賢さ、頭の良さ (.219*)  | 「学力」     | 自分についての誇り：賢さ、頭の良さ (.178)   | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：忍耐力・努力家 (.167)   | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：容姿 (.109)        |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：体力・運動能力 (.219*)  | 「非認知能力」  | 自分についての誇り：まじめ (.167)       | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：やさしさ (.157)      | 「学力」    | 自分についての誇り：賢さ、頭の良さ (.075)   |
| 「非認知能力」 | 自分についての誇り：容姿 (.138)        | 「学力」     | 悩みや心配事の有無：勉強のこと (-.160)    | 「非認知能力」 | 自分についての誇り：容姿 (.075)        | 「学力」    | 悩みや心配事の有無：勉強のこと (-.074)    |

(注)1.ピアソンの稜率相関係数を用いた。\*\*の相関係数は1%水準で有意(両側)。\*の相関係数は5%水準で有意(両側)

2.分析に使用したどちらかの要因に無記入のあるサンプルは除外した。

以上により、将来の希望の有無には、狭義の「学力」の関連も認められるが、それ以上に「非認知能力」に関する項目が、より強い関連を確認することができた。特に、中高および男女いづれでも有意な結果を得られた「非認知能力」の項目は、「決断力・意志力」「正義感」の2項目であった。中学生特有の結果としては、「正義感」が高校生の結果より、高い値が示されていることがあげられる。また、男子特有の結果として、中高一貫して「明るさ」が上位にあることが指摘できる。

加えて、「学校生活の満足度」については、学校段階や性に関わりなく、いずれも有意な結果が得られたことは注目すべきだと言える。

#### 4. 考察

本稿の目的は、「希望格差」と呼ばれる状況を改善できる具体的な教育方策を検討するために、希望を規定する社会的要因の中でも、家庭の状況（経済状況、人間関係）および、学校生活の状況（「学力」／「非認知能力」の獲得、学校生活の満足度）について、それぞれの影響の大きさの確認・整理をおこなうことであった。

まず、社会的要因の分析に先立って、今回の回答者の「希望」の内実を明らかにした。全体的なパターンとしては、自己肯定感や自己効力感が高く、「多くの人の役に立つ」という社会的成功を将来に見通すことができる子が、自分の将来に希望を持っていた。

経済的成功とも関連がないわけではないが、それ以上に「多くの人の役に立つ」ことができそうかどうかを基準に、自分の将来の希望があるかどうかを判断するという考え方は、注目に値する。と言うのも、経済的成功を得られるのは限られた人数のみであるが、多くの人の役に立つ、というのは比較的誰でも手が届く成功であるからだ。

そのように考えれば、多くの人の役に立てそうな「自信」がある子が将来に希望を持っていると言うより、多くの人の役に立つことを「願う」子が、将来に希望を持てているのだとも考えられる。

次に、家庭のなにかが、特に希望の有無に影響しているのかを探るために、先行研究で指摘されていた経済状況と人間関係に焦点を当て、分析をおこなった。その結果、家庭の経済力の影響は、高校男子にのみ見られるものの、中学生や高校女子の結果では明確な影響を確認できなかった。むしろ、家庭内の人間関係の影響が希望の有無に強く影響していることが示された。家庭の経済状況以上に、家庭内の人間関係が、子どもに影響を与えているという結果は、階層間格差のイメージに一石を投じるものであり、今回得られた知見の中で、重要なうちのひとつだと言える。

学校生活と希望の有無の関連についてである。まず、狭義の「学力」に注目すると、「賢さ、頭の良さ」に誇りがあるという人ほど、将来に希望を抱いていることが示され、一定の関連を認めることはできた。特に、2013年調査の高校女子では、「自分についての誇り：賢さ、頭の良さ」が上位に上がっていた。一方で、2018年調査では、高校生の男女ともに、「学力」を測る項目について有意な結果は得られなかった。

さらに、これら「学力」に関する指標とした項目以上に、「非認知能力」に関する項目で、

より強い関連を確認することができた。特に、「決断力・意志力」「正義感」の2項目については、学校段階・性を問わず、有意な結果を得られた。加えて、「学校生活の満足度」についても、学校段階や性に関わりなく、いずれも有意な結果が得られた。

その意味で、「希望」という視点からだけ見れば、学歴社会で重視される力とは異なる、「非認知能力」と呼ばれるようなものを育成することが重要だと言える。つまり、受験競争に打ち勝つ力を育てるより、今の社会をうまくドライブしていける力を育てることが望まれる。

これらの結果に基づいて、子ども達の将来への希望をいかに育てていくかについても、述べておきたい。まず、家庭教育については、教育するという意識以上に、家族で充実した時間を過ごすことが大事だと言える。そのためのサポートが、行政や学校、もっと言えば社会に求められていると言える。それは、経済的な援助以上の力を持っている可能性がある。

次に、学校教育についてである。今回の結果から、決断力・意志力や正義感といった「非認知能力」の伸長や、多くの人に役立つことを志向する考えを育成することが重要であると考ええる。また、子ども達が満足するような学校生活を送れるようにすることも、大事である。考えてみれば、かつての「教育のパイプライン」が機能していた頃、それぞれに配分された職場において、若者はこれらを育む機会が与えられた結果、「絶望」までには至らず、うまく社会に包摂されてきたのではないだろうか。

以上、希望を軸として、いまの日本の子どもたちについて理解するとともに、どのような教育によって改善ができるかについて述べてきた。だからといって、もちろん現代のワーキング・プア問題などについてこのままでよい、と考えているわけではない。教育の立場からできることは試みたうえで、今後の政策の充実にも期待したいというスタンスであることを付け加えておく。

最後に、今回の研究の限界と今後の課題を述べておく。今回のデータでは、家庭の経済状況は、あくまで回答者の満足度や心配度を聞いた内容に基づいた分析であり、実際の家庭の経済状況が完全に反映されていない可能性がある。同様に、「学力」、「非認知能力」についても、誇りがあるかという聞き方であり、それぞれの力を純粋に測った場合とでは結果が異なっている可能性は否定できない。

また、日本の子どもに限定すると、回答者数があまり多くなく、複雑な分析をすることが困難であった。

今後は、他国の若者の状況も含めた分析をおこない、より比較社会的な視点から、我が国の子どもについて論じることが重要だと考える。また、より精緻な結果を得るために、重回帰分析をおこなうことも望まれる。

#### <注>

- ・本研究の内容は、日本教育社会学会第74回大会（於：日本女子大学）にて、2022年9月10日に口頭発表をおこなった「子どもの将来への希望の有無とその要因について」に加筆修正したものである。
- ・本研究は、JSPS科研費若手研究（B）（課題番号17K18206：研究代表 鳥越ゆい子）による研究成果の一部である。

<引用文献>

- ジェームズ・J・ヘックマン著、古草秀子訳2015『幼児教育の経済学』、東洋経済新聞社
- 梶田叡一1985『子どもの自己概念と教育』、東京大学出版会
- 梶田叡一編1987『自己認識・自己概念の教育』、ミネルヴァ書房
- 荻谷剛彦2001『階層化日本と教育危機—不平等再生産から意欲格差社会』、有信堂高文社
- 玄田有史2009年7月23日「希望学とは」『希望学プロジェクト』、[https://project.iss.u-tokyo.ac.jp/hope-archive/hopology/hopology\\_09.html](https://project.iss.u-tokyo.ac.jp/hope-archive/hopology/hopology_09.html)（参照：2023年3月31日）
- 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）2014我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成25年度）（PDF）
- 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）2019我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成30年度）（PDF）
- 額賀美紗子・藤田結子2022『働く母親と階層化：仕事・家庭教育・食事をめぐるジレンマ』、勁草書房
- 佐藤俊樹2000『不平等社会日本—さよなら総中流』、中央公論新社
- 志水宏吉2014『「つながり格差」が学力格差を生む』、亜紀書房
- 志水宏吉・若槻健2017『「つながり」を生かした学校づくり』、東洋館出版社
- 志水宏吉2022『ペアレントクラシー「親格差時代」の衝撃』、朝日新聞出版
- 鈴木賢志2015『日本の若者はなぜ希望を持ってないのか』、草思社
- 山田昌弘2004『希望格差社会』、筑摩書房
- 山田昌弘2021『新型格差社会』、朝日新聞出版
- 山田昌弘2022「希望格差から『親ガチャ』へ：若者のリアル。」、『潮』、潮出版社編、756号、pp.68-74